



園部 増治 議員

**(仮) 南古河駅の設置について**

**問** 8月から9月にかけて古河市のまちづくりに関するアンケート調査が行われた。先導的プロジェクトについての設問では市民ニーズが的確に反映されていると感じた。中でも(仮)南古河駅設置への期待については、前回の平成18年度調査時と比較して4.7ポイント高くなっている。また、南古河駅基礎調査報告会時のアンケートでは、2km圏内の回答が、85.7%と多くの

期待が寄せられている。新駅ができる通勤・通学の利便性が著しく向上し、また周辺整備として、商業施設や映画館、図書館、学校、市の分庁舎や情報センターなどの建設も考えられる。さらに、防災面や経済効果も期待できる。ぜひ国・県と連携を図りながら市長が先頭に立ち、市民の夢をかなえていただきたい。



区画整理事業の勉強会(大堤公民館)

**答(市長)** 先導的プロジェクト4項目の中で、(仮)南古河駅

設置は1番目に位置づけられており、今回の市民アンケート調査でも4項目の中で最も関心が高く、着実な実現を目指すところである。一方で、(仮)南古河駅設置への期待度は、予定地周辺では8割以上であるのに対し、市全体では4割弱にとどまっており、新駅設置の推進には、市民全体のコンセンサスが何より重要であると考えます。

また、大堤南部土地区画整理事業の推進が必須であり、新駅利用者の確保、用地および駅舎等の建設費用の財源確保など、さまざまな課題の検討、研究が必要である。今後も、積極的に情報を公開しながらまちづくりを進めていきたい。



阿久津 佳子 議員

**学校給食におけるアレルギー対応について**

**問** 食物アレルギーのある市内小中学生は215名である。現在、学校給食(センター方式・自校方式)では、センター方式において「卵・乳」を除去するアレルギー対応のみであり、この除去食は8名に配食されている。なぜ自校方式(古河地区小学校7校)での対応ができないのか。また、増加傾向にある「小麦・落花生」等のアレルギー対応や自校方式の在り方・運用面等、

今後の対応について伺う。

**答(市長)** 学校給食は生きた教材として食育の重要な役割を担っており、食物アレルギーがある子どもも皆と同じ給食を食してほしいという思いはある。学校給食は安全な給食を提供することが最優先であり、食物アレルギーの対応は、児童生徒の命に関わる問題のため慎重に考えていく必要がある。

**答(教育部長)** 乳、卵以外の小麦を含む他の品目への除去食における対応については、専用の調理室や調理員、器具等が必要であると考えます。除去食、代替食への対応については、他自治体の先進事例等を参考に、研究に努めていきたい。

また、自校方式の今後につい

ては、教育振興基本計画のなかで、設備の老朽化による大規模な改修が必要な場合は、段階的に給食センターへの移行を検討するとある。給食センターからの提供校を増やす場合、給食センターの調理員や配送員の増員、学校側の配膳員の採用や給食配送車出入口等の改修が予想される。自校方式の在り方を含め、給食センターの効率的運用を検討していきたい。



古河市学校給食(センター方式)